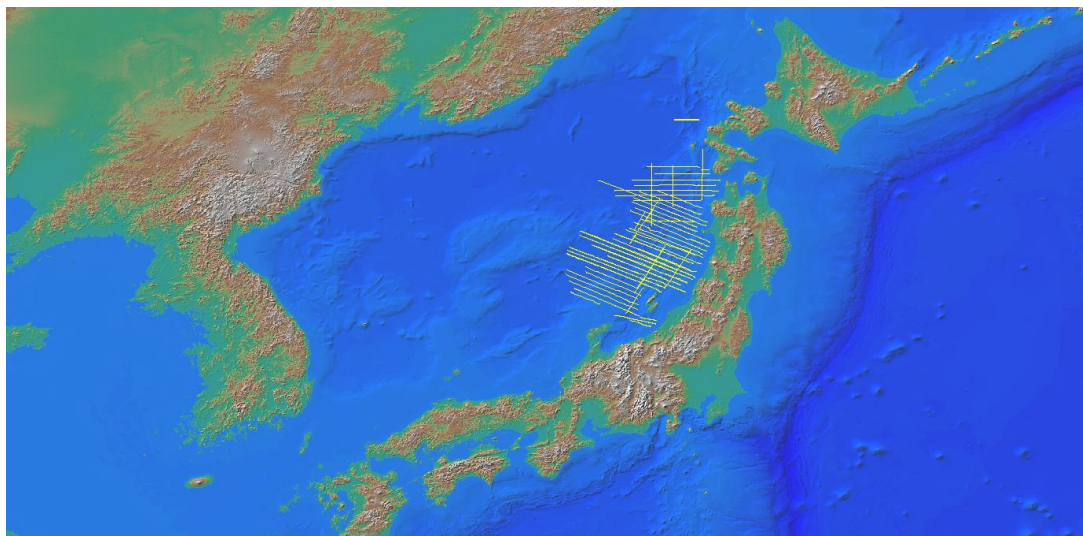
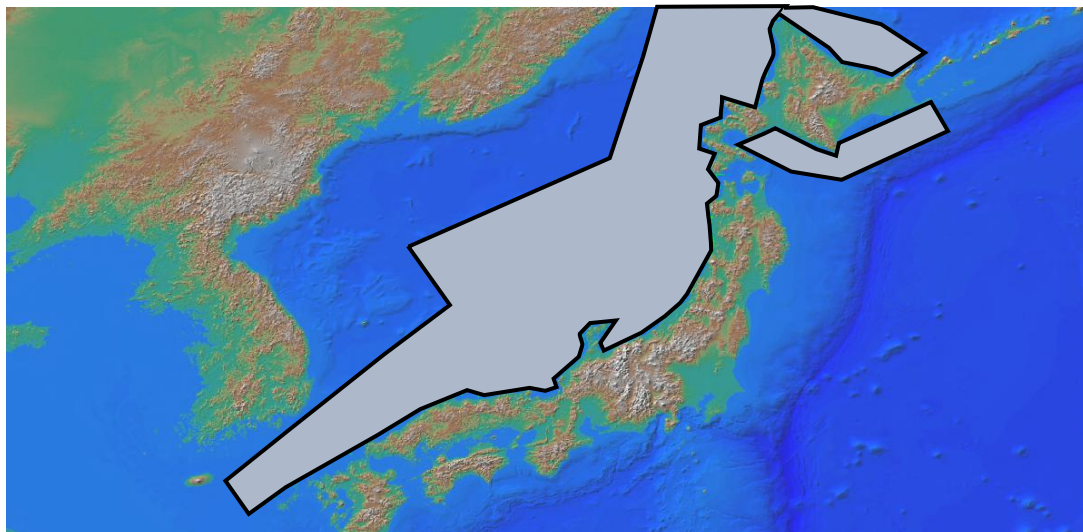


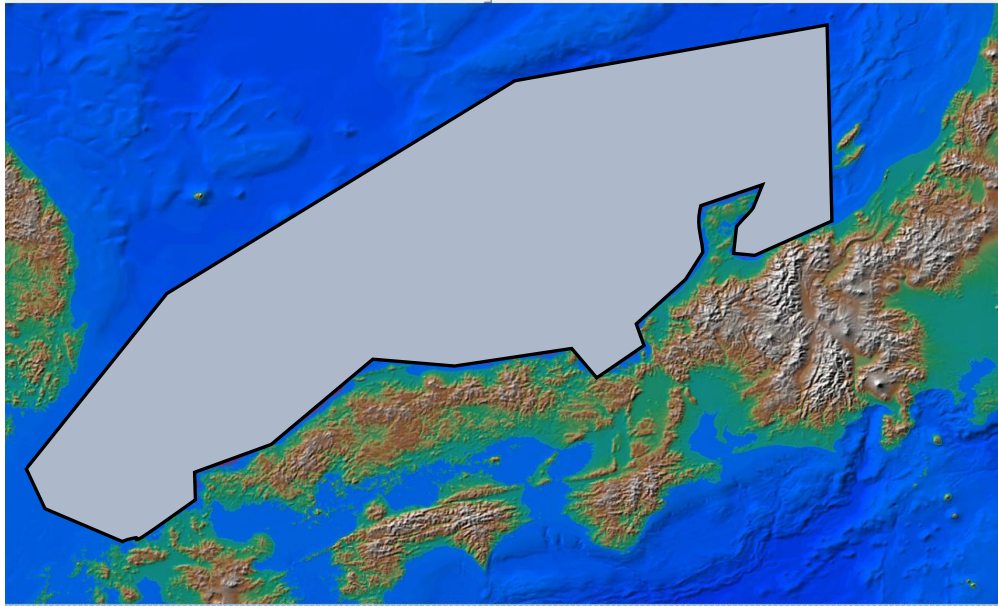
図 1. 海域断層に関する既往調査結果の収集及び海域断層 DB の構築



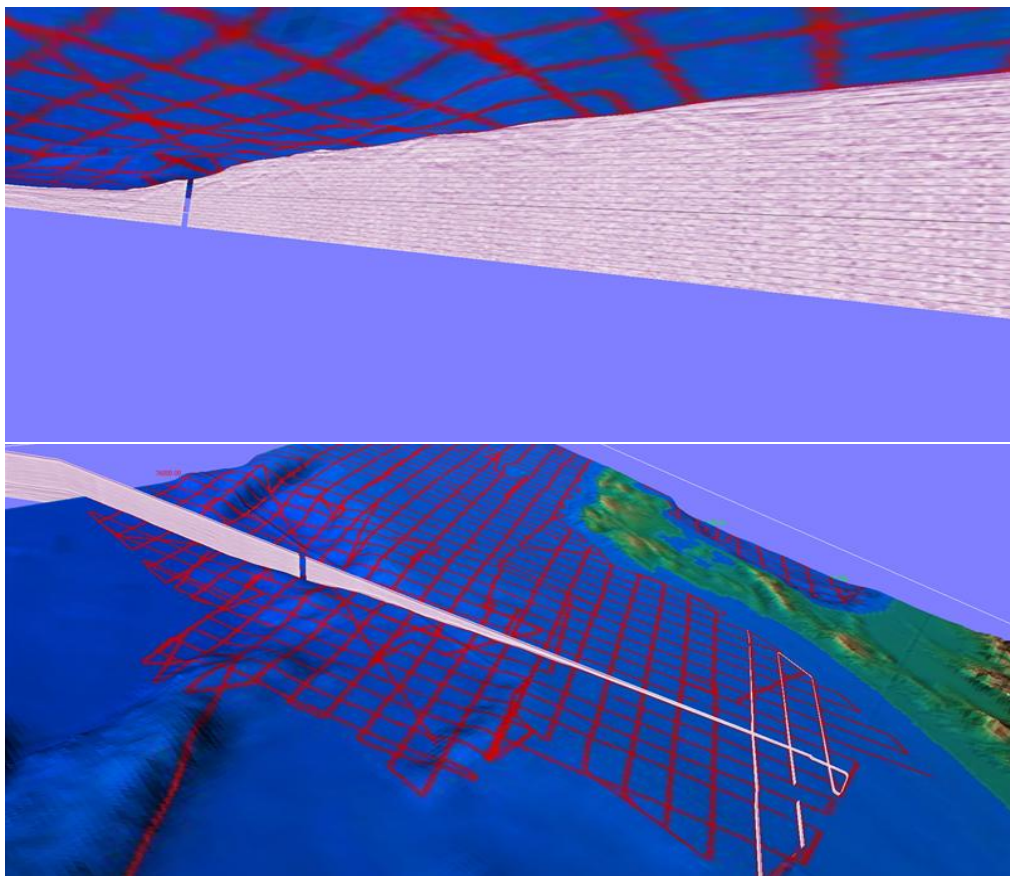
JAMSTEC 収集データ（日本海）
黄線が測線は測線位置を示す



JOGMEC 収集データエリア（日本海、オホーツク海及び太平洋の一部）
色塗りハッチ部分



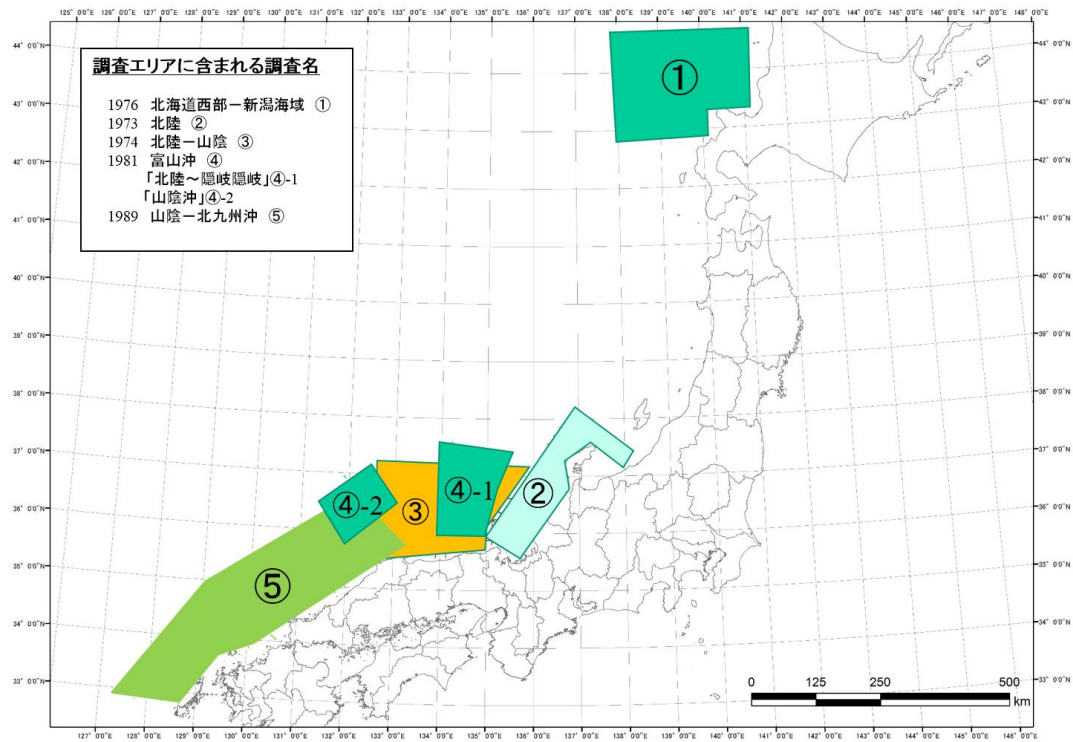
AIST 収集データエリア（能登半島周辺以西）
色塗りハッチ部分



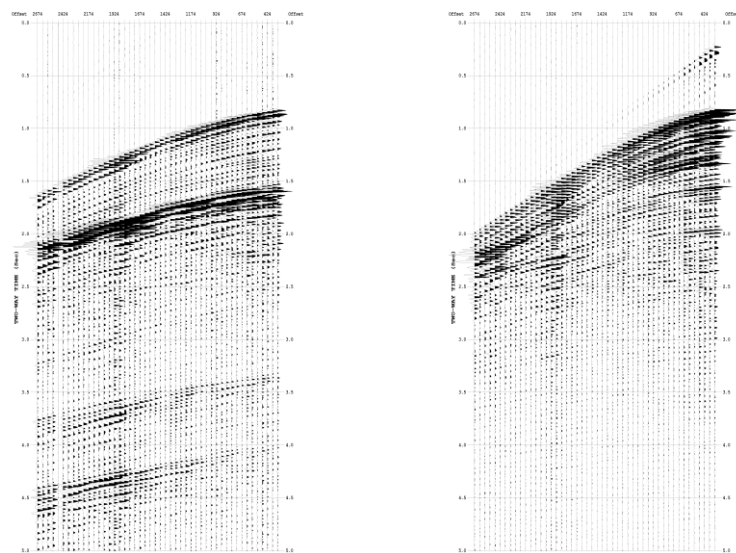
登録時の簡易的なデータ QC 例

記録上の海底地形と DB 上の海底地形との比較でクオリティコントロールを実施した

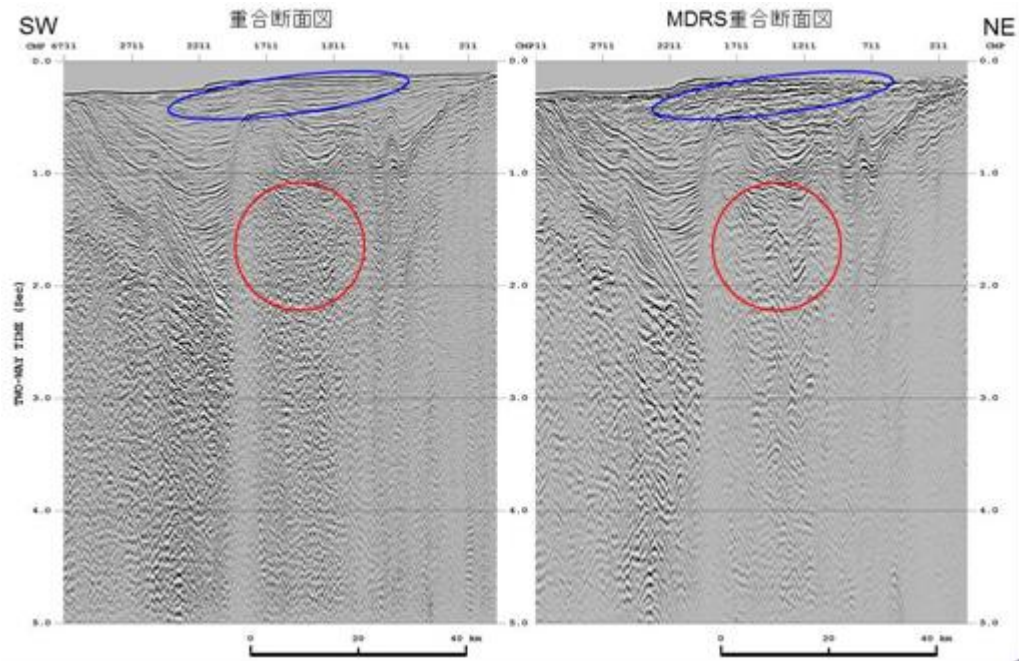
図 2. 海域における既往探査データ等の解析及び統一断層解釈



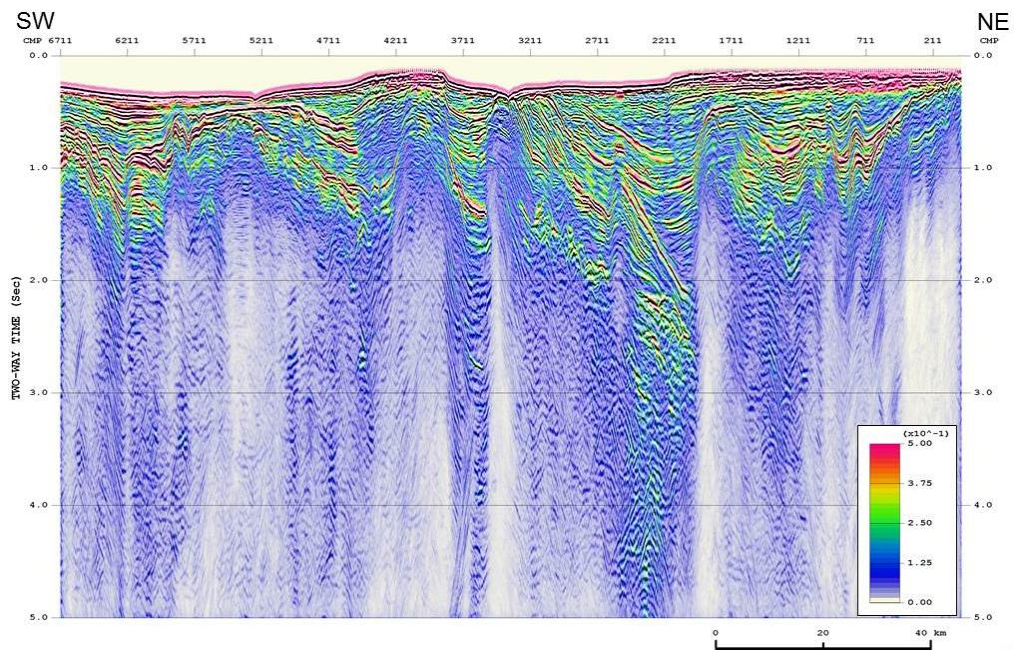
再処理対象エリア（色塗りハッチ部分）



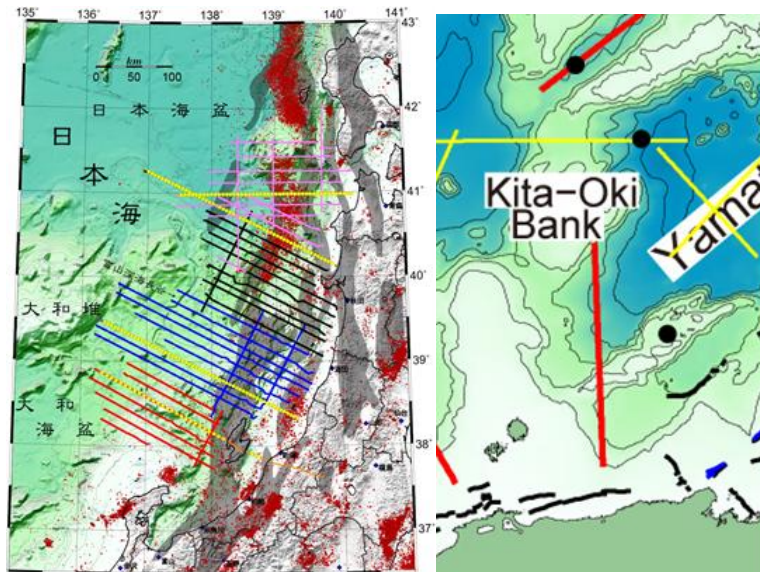
発振記録例



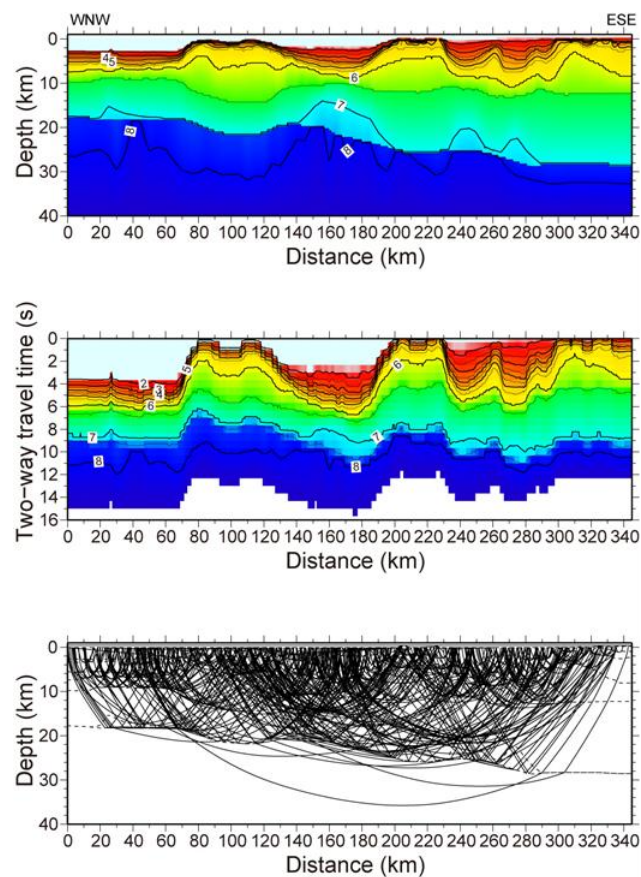
重合断面図と MDRS 重合断面図の比較。赤いエリアでは反射面が強調されているが、青いエリアでは多重反射面が強調されている。



MDRS 重合断面図と MDRS アトリビュート（センブルランス）。



ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究の中で実施された構造探査測線。黄色丸が海底地震計を示す。この4本を主に用いて、速度構造ボリュームを作成する。灰色は Okamura et al. (2007) が示したひずみ集中帯、赤点は気象庁一元化震源を示す。



能登半島沖～佐渡島～越後平野に至る速度構造。(上)速度構造。(中)時間断面に変換した速度構造。(下)速度構造の信頼区間を示す波線図